

本県選出、大沼参院議員らの議連 認知症対策に理解深める



認知症について理解を深めたサポート
議員連盟の衆参両院議員

＝東京都千代田区・参院議員会館

自民党の衆参両院議員で
発足し、本県選出の大沼瑞
穂参院議員が事務局次長を
務める認知症サポート議員
連盟(会長・北川イッセイ
参院議員)は22日、東京都
千代田区の参院議員会館で
認知症サポーター養成講座
を開き、約20人の議員が認
知症への理解を深め、サポ
ーターとして登録した。

北川会長は「日本は認知
症対策が遅れており、でき
るだけ早期に対策推進基本
法をつくりたい。次の臨時
国会で(超党派の議員立法
で)国会提出を目指す」と
意欲を示し、協力を呼び掛
けた。大沼事務局次長が講
座開催の経過を報告し、講
師の玉井顕敦賀温泉病院長
を紹介した。

玉井氏は▽記憶障害▽理
解・判断力の低下▽実行機
能の低下といった認知症
の中核症状を説明し「認知
症の患者を漠然と見ている
も症状には気付かない。認

知症について正しい認識を
持ち、家族ら周囲の人が優
しく接することが重要」と
強調した。
説明によると、福井県敦
賀市は2人に1人が認知症
サポーター。玉井氏は「地
域の理解が進めば症状の早
期発見につながり、重症化
を防ぐとともに入院患者数
を減少させられる。国会議
員の後押しで、ぜひ全国各
地でサポーターの輪を広げ
てほしい」と述べた。